

平成 2 0 年度 長良川河口堰調査検討会報告書

平成 2 1 年 3 月 1 7 日

1 はじめに

長良川河口堰は、平成7年7月6日、全ゲートの降下が完了（ゲート操作を開始）し、以降本格運用がされ12年が経過した。

河口堰の運用にあたっては種々の懸念が表明されたが、岐阜県においては、この懸念に対し、国や事業者（水資源機構）が十分な対策をとっているかについて調査・検討を行うため、平成5年に長良川河口堰調査検討会を組織した。

この検討会では、県民各界の代表者により長良川河口堰県民調査団を編成し、長良川の水環境や自然環境の保全及び治水などについて、計画・実施された対策が十分機能しているかについて調査・検討を行ってきた。

事業者においても、河口堰の管理・運用後河口堰の治水・利水の効果や環境への影響などモニタリングを実施するとともに、学識経験者を中心とした「長良川河口堰モニタリング委員会」（平成7年度～平成11年度）、「中部地方ダム等管理フォローアップ委員会（堰部会）」（平成12年度～平成16年度）により審議されている。管理の開始から10年目にあたる平成16年度には「中部地方ダム等管理フォローアップ委員会（堰部会）」において、河口堰の運用後の環境の変化は概ね安定しており、総じて問題のないことが確認された。なお、「堰部会」は平成16年度をもって解散し、平成17年度より「中部地方ダム等管理フォローアップ委員会」で審議されている。

当検討会では、県民調査団の調査の結果、問題として提起された事項及び事業者によるモニタリング結果を受け、種々の対策やその効果について「理解及び確認できた事項」、更なる対策を「要望及び推移を見守る事項」として整理した。「要望及び推移を見守る事項」については、問題点への対応について継続して検討を行い、必要な事項については知事に提言を行うこととしている。

今回で通算15回目の開催を重ねた長良川河口堰調査検討会では、平成20年度の長良川河口堰県民調査団に参加された方々からのご意見及び平成19年度長良川河口堰モニタリングの結果をもとに討議を尽くした。

本書は、この検討会の議事録を要約したもので、これをもって平成20年度長良川河口堰調査検討会の報告書とする。

2 平成20年度県民調査団と平成20年度調査検討会の経過

平成20年度長良川河口堰県民調査団（通算31回目）

実施日：平成20年10月27日

調査テーマ：(1)水質保全対策について
(2)環境保全対策について
(3)河口堰管理状況について

調査場所：人工干潟（城南沖）長良川河口堰、アクアプラザながら

調査メンバー：長良川河口堰調査検討会委員、水防団（岐阜市、海津市）、消防団（瑞穂市）、自治会連合会（瑞穂市、北方町）、漁業協同組合（海津市、関市、郡上市）、婦人会（大垣市）、団体（羽島市）、岐阜県土地改良事業団連合会、ぎふ女性大学の会、県議会議員、関係市町議会議員（羽島市、輪之内町、北方町）、関係市町（岐阜市、羽島市、瑞穂市、海津市、大垣市、輪之内町、北方町）、公募による参加者

平成20年度長良川河口堰調査検討会（通算15回目）

開催日：平成21年2月9日

開催場所：県民ふれあい会館 14階展望レプションルーム

報告事項：県民調査団の実施報告、長良川河口堰の管理状況、フォローアップ委員会資料

討議内容：(1)水質・底質について
(2)魚類について
(3)その他（治水対策などについて）
(4)まとめ

討議参考資料：
・平成19年度 長良川河口堰調査検討会 報告書
・平成20年度 長良川河口堰県民調査団 実施状況、要約意見書及びアンケート結果
・長良川河口堰調査検討会の記録(平成19年9月)
・長良川河口堰の最近の管理状況について
・平成20年度中部地方ダム等管理フォローアップ委員会年次報告(平成19年次)について
・INFORMATION 長良川河口堰

3 まとめ

本検討会では、長良川河口堰県民調査団の調査結果について、「水質・底質」、「魚類」及び「その他」の事項として治水対策などを中心に討議を行った。

この結果、生態系・環境・防災面の現状と講じられている対策について、多くの事項については理解し、確認できたと判断した。一方で、今後も継続して調査を要する事項もある。

当検討会としては、今後とも長良川河口堰の治水効果や環境面への影響等について注意深く推移を見守っていく必要を認め、堰運用上の課題を引き続き検討することとし、本検討会は継続するものとする。

平成21年3月17日

長良川河口堰調査検討会議長

河村 三郎

平成20年度 長良川河口堰調査検討会の要約

大項目	小項目	細目	討議の要点	理解及び確認できた事項	要望及び推移を見守る事項
環境	底質	底質の状況	堰直上下流の底質について	・長良川河口堰運用後も、底質は悪化傾向にな いことを理解した。	・今後も調査を行い、推移を見守っていく必要 がある。
	水質	水質の状況	長良川の水質について	・長良川河口堰運用後も、水質は悪化傾向にな いことを理解した。 ・平成19年度の伊勢大橋地点のBODが高か った原因として、採水時の流量が少ないこと、 植物プランクトンの増加していたことなどが考 えられるが、秋以降低下したことを理解した。	・今後も調査を行い、推移を見守っていく必要 がある。
	魚類	人工河川	人工河川の活用について	・平成17年度から「長良川漁業対策協議会(魚 対協)」が、アユ人工ふ化放流事業を実施して いることを理解した。 ・平成17年度から「長良川漁業協同組合」が、 銀毛アマゴ放流事業を実施していることを理解 した。	・長良川水系の水産振興のため、今後も人工河 川によるふ化放流の実施について努力願いた い。
		魚類の遡上	稚アユの遡上数について	・平成20年の左岸呼び水式魚道(陸側階段部) のアユ実測遡上数は、過去最高であり、長良川 河口堰の魚道は順調に機能していることを理解 した。	・今後も調査を行い、推移を見守っていく必要 がある。
動植物 環境	生息環境の保 全と復元対策	人工干潟について	・長良川の河道掘削時に発生した土砂を有効利 用し、平成5、6年にかけて河口域の城南沖及 び長島沖の2箇所造成された人工干潟は、自 然に存在する河口域の干潟と同様に、底生生物 のほか魚類・鳥類の生息場として機能している ことを理解した。	・人工干潟に関する環境調査を要望した。	
防災	治水	マウンドの浚 渫	マウンド浚渫後の河床堆積に ついて	・河道の堆積状況については注意深く監視が続 けられ、河床変動の動向については検討され、 治水上の支障が明らかになれば、必要な対策が 実施される予定であることを理解した。	